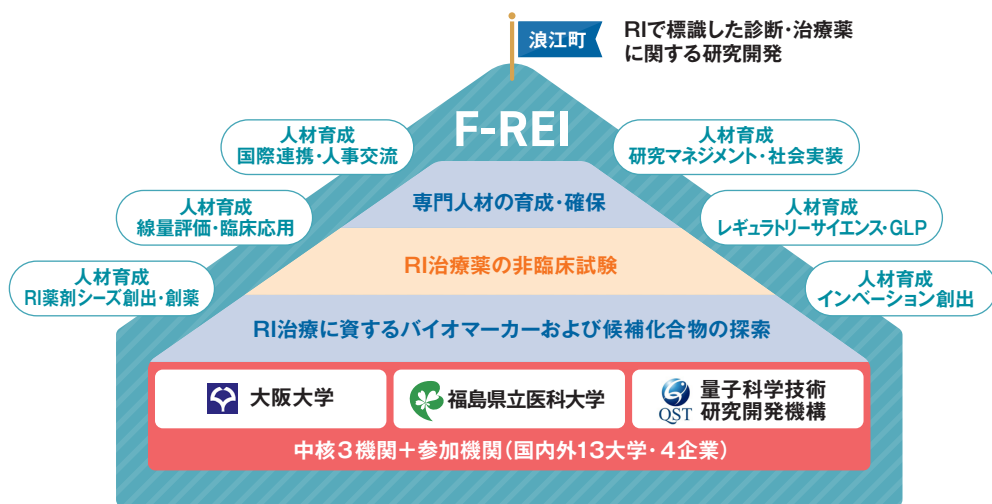


TOPIC

研究加速へ、福島国際研究教育機構(F-REI)の研究事業を3件受託

「福島復興を加速する多機関連携によるRI医薬品の開発」



※①「福島復興を加速する多機関連携によるRI医薬品の開発」イメージ図

F-REIとの連携強化 研究加速へ

第4分野「放射線科学・創薬医療」(②③)と第5分野「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」(①)において研究事業の委託契約を締結

F-REIで実施中の委託研究については
こちらから
ご覧ください。



① 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 (次世代甲状腺検査法および人材育成法の開発)

福島県「県民健康調査」を実施する上で明らかになった課題を解決するための研究です。

具体的には、甲状腺腫瘍の細胞診検体を用いた予後予測方法の開発、AI技術を用いた超音波画像解析方法の開発の他、

血液からの甲状腺がんの診断や予後予測が可能となるバイオマーカーの探索を行うことにより、甲状腺がんリスク評価システムの構築を目指します。また、AI画像分析技術を用いた教育用システムを開発し、甲状腺検査者育成デバイスの実用化に取り組

みます。

これらの次世代型検査方法および人材育成方法により、甲状腺がんの早期診断・早期治療を実現するとともに、過剰診断など甲状腺検査における課題解決および復興・創生への貢献が期待できます。

② 東日本地域の研究機関等への安定供給に向けたアスタチン製造に関する研究開発

本学では現在、国内唯一の医療用に特化した中型サイクロトロンを設置しており、アスタチン-211を用いた「アスタチン-211-MABG治療薬」を世界で初めて人に投与できるレベルで安定製造を行っております。

今回受託した研究では、このサイクロトロンのターゲット冷却装置やイオン源の改良などにより、アスタチン-211の製造量の増加を図るための技術開発を進めます。

これにより、半減期の短いアスタチン-211

を用いた標識薬剤の研究開発や臨床試験の実施を目指している東日本の多くの研究施設や病院などに、本学のサイクロトロンで製造したアスタチン-211を安定的に供給できることを目指します。

③ 福島復興を加速する多機関連携によるRI医薬品の開発

本学TRセンター*が開発した抗体技術などを活用し、RI治療や、世界初の治験を行っているアスタチン-211-MABG治療薬の開発経験を活かした研究です。

前立腺がんを対象とするアスタチン-211-

*医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター

PSMAなど、放射性核種を標識するRI診断・治療薬の開発と非臨床試験、そして新たな治療薬や治療法の研究開発に携わる人材や、開発した薬剤で治療を行う専門人材を育成してまいります。

これらの研究により創出される成果を、浜通り発の新たな医薬品産業の集積や医療の提供、放射線領域の研究・教育へ活かすことで、わが国のみならず広く海外にも波及していくことが期待されます。



附属病院看護部 二丹 玲子看護部長就任



令和6年4月1日付で、本学附属病院看護部部長に二丹 玲子看護部副部長が就任いたしました。二丹 玲子看護部長が次のように今後の抱負を述べました。

当院は、福島県唯一の大学病院であり、高度急性期医療や先進医療を担う特定機能病院です。

福島県の救急医療や災害・被ばく医療、子ども医療などあらゆる医療分野の中核となっており、県民の健康を守るという大きな使命を担っています。

また、「県民の健康を守るため豊かな人格と感受性をもち、質の高い看護を提供する」理念のもと、患者さんやその家族の思いを尊重した

温かみのある看護を基盤に多職種や地域と連携した切れ目のない看護を提供しています。

さらに、医師の働き方改革における重要な戦略の一部であるタスクシフトの一役を担います。多職種連携を深めながら看護部一体となり全力で役割を果たしてまいります。

その為にも、心理的安全性が担保できる職場風土、専門職として自らを高め仕事にやりがいを持って働き続けることができる組織運営を目指しています。

また、看護師ひとりひとりが自分の看護を追求しキャリアを積んでいけるよう病院全体で教育プログラムを整えています。

自身が専門職としてなりたい看護師像の“希望”

に向かい“挑戦”しそして“自信”をもって看護が実践できる看護師になれるよう支えていきます。

それらの実践により、附属病院が果たす使命の一役を担い寄与していきたいと思ひます。皆様のご支援・ご指導をよろしくお願ひします。



information of FMU hospital

神経内分泌腫瘍(NEN)専門外来開設

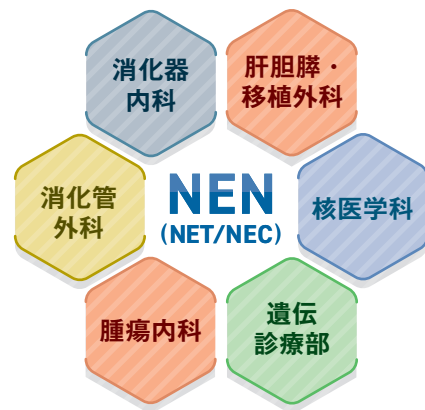
令和6年4月より本学附属病院では新たに神経内分泌腫瘍(NEN)専門外来を開設しました。

本学附属病院の総合力を活かし、希少疾患である神経内分泌腫瘍に対応します。

希少疾患である神経内分泌腫瘍は、診断

治療法の進歩と特殊性や長期経過観察の必要性などから、広域での地域連携の整備が欧米や本邦において進められています。

今後も地域病院と連携をとりながら、長期間続く療養期間の中で、一貫性継続性のある治療方針の確立、最新の治療提供を行います。



INFORMATION

FMUメディカルラボ2024

電気メス、災害医療など盛りだくさんの体験イベント

6月2日
初開催!

本学学生による企画・主催

- 企画名** FMUメディカルラボ2024
- 開催目的**
 - 福島県立医科大学とふくしまの魅力を再発見し発信していく。
 - 福島の医療に興味と関心を持つきっかけとなる。
- 開催日時** 2024年6月2日(日) 10時~16時
- 会場** 福島市こむこむ館 1階 にぎわい広場 〒960-8044 福島県福島市早稲町1-1
- 対象年齢** 小学生~高校生
- 参加費** 無料
- 主催団体** 福島県立医科大学広報サークル FMU PR-Lab
- 共催** 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ

2024年6月2日(日) 10:00-16:00 入場無料

福島市こむこむ館 1階 にぎわい広場
対象: 小学生~高校生

詳細はこちらから! QRコード

イベント詳細はこちらから

